

古代の行田の人々の住まい

いにしへの行田の人々はどうのような家で暮らしていたのでしょうか。

縄文時代以降平安時代まで、一般庶民の多くは縦穴住居で暮らしていました。縦穴住居は、地面を方形や円形に数十センチメートル掘りくぼめて底に床を作り、そこにクリの木などで4〜6本の柱を建て、梁や垂木をつなぎ合わせて家の骨組みを作り、その上にアシ、わら、土などで屋根を葺いた建物です。屋根を地面まで葺きおろす伏屋式のもの、縦穴の壁に沿って細い柱を狭い間隔で立て並べて側壁を作る壁立式のものがあつたようです。いずれの場合も掘った土を周りに積み上げて雨が入らないようにしていたようです。

また、火事で焼けてしまった住居（焼失住居）が発見され、焼けた屋根の土や炭化した柱などが住居の中から出土することがあります。ところが、こうした焼失住居の中からほとんど火を受けていない土器が数個まとまって出土することもあります。どうやらこうした住居は火事を出したのではなく、使わなくなった住居を燃やして、火が鎮まった後に土器を置いて何らかの儀式（鎮火祭祀）を行っていたようです。今までも暮らしていた家を申う儀式が行われていたのかもしれない。（文化財保護課 中島 洋一）



小敷田遺跡の弥生時代の復元縦穴住居（郷土博物館）



鎮火祭祀の見られる古墳時代前半の焼失住居

置いて何らかの儀式（鎮火祭祀）を行っていたようです。今までも暮らしていた家を申う儀式が行われていたのかもしれない。（文化財保護課 中島 洋一）

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



夏といえばやっぱりプール！

昭和47年に開設した市民プールは、市民の皆さんにとってなじみ深いプールで、屋内・屋外・屋外幼児用があり、屋内プールは年間を通して利用することができるんだ。平成24年には屋外幼児プールをリニューアルして、クジラやタコなどかわいいイラストが描かれたプールになったよ。

ぜひ、家族や友だちと一緒に市民プールに遊びに来て、行田の暑い夏を満喫してくださいね。

※屋外プールの営業は8月31日までです。



今月の表紙 6月29日、第23回行田市綱引き大会が開催されました。

低学年、中学年、高学年の部(チーム)に分かれて行われ、どのチームも優勝目指し、心を一つにして力いっぱい競技に臨んでいました。また、応援に駆け付けた保護者なども、白熱した試合に呼応するかのよう大きな声援を送っていました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています